

11月中旬に東京に行ってきました。旅の目的は学生時代の友人二人と会い、行きつけの居酒屋で一杯やること、半年ぶりの上京でした。旅というのは、本来は非日常の世界に楽しみを求めるものなのでしょうが、私にとっての東京の旅は、そういうものではないですね。あえて言えば、依然と同じ姿で、「東京」が迎えてくれることを求めているだけなんです。練馬の居酒屋「金ちゃん」、渋谷のラーメン店「喜楽」、落語の池袋演芸場、そして学生時代の友人 etc・・・。

たとえ大した話はなくても、同世代を生きてきた友人と、昔なじみの居酒屋で一杯飲むというのは最高の気分ですね。日常生活の中の、不安や孤独、むなしさといったネガティブな感情を忘れていいますよ。考えてみると、彼らと出会った頃から、40年くらいの年月が流れているのですから、信じられない思いです。



学生時代に知り合った友人たちの中には、45歳の若さで早逝してしまった親友もありますが、現在生きている者も、何度もの転職や、離婚や再婚、いまだに独身者もいますし、それぞれ歩んできた人生も、置かれている状況も様々ですね。「作家」「数学者」「弁護士」「画家」など、彼らは十分に才能が有り、若き日に「夢」を抱いた男たちでした。しかし、それらは実現しないまま、それぞれの「別な形の人生」を歩んでいます。

それにしても、私が東京で一番好きな場所である練馬の居酒屋「金ちゃん」は相変わらずの盛況でしたね。70年代から少しも変わっていない、この店の雰囲気と活気が、私はこの上もなく好きですね。ここへ来ると「元気」をもらいますよ。一緒に飲んだ友人は、「ここは東京の子宮だ」とか「音楽が聞こえる」とか、意味不明のことを言っていました、感覚的には少しわかります。「都会のオアシス」のようなこの店も、後を継ぐ者がいないようなので、いつの日か消えてゆくことになるのでしょうか、たまらなく寂しい思いがしますね。



「オヤジ、年はとつても、まだまだ元気でやってくれんといけんで！またいつか来るけえの」  
( '11・11・29)